日本銀行金融研究所貨幣博物館

テーマ展

版木からみた江戸・明治期の銭譜

2012 年 1 月 17 日(火)～5 月 6 日(日)

江戸時代以降、学者や収集家によって貨幣に関する研究が進められ、その成果は銭譜(銭貨を中心とした貨幣図鑑・参考書)としてまとめられました。銭譜は、一枚板に彫り込んだ版木から作られ、出版されました。

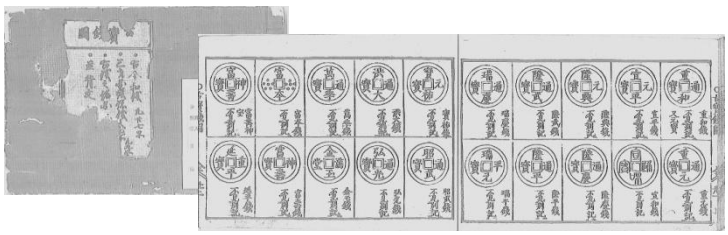
今回の展示では、貨幣に関する情報や知識が人々の間で共有される契機となった銭譜とその版木を当館の所蔵資料からご紹介します。

①銭譜の世界ー貨幣研究と貨幣図鑑ー

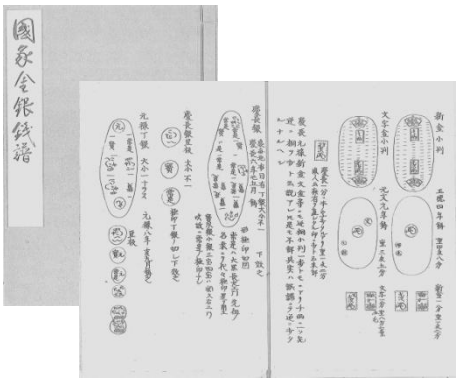
初期の銭譜とされる『和漢古今宝銭図鑑』は、貨幣の図を中心とし、解説文は少ない。
その後、図に解説文をつけた銭譜が出版されるようになり、貨幣収集家は銭譜を買い求め、知識を深めた。

【江戸時代の図録の出版】

江戸時代には、動物・植物・鉱物のほか、生活・医学・文学・趣味などに関わる図録や書物が数多く出版された。こうしたなかで、各分野の専門家やアマチュア研究者が生まれ、江戸時代後期になると、知識や蔵書の貸借をする同好会が各地で催されるようになった。貨幣に関する知識も同様に深められていった。



『和漢古今宝銭図鑑』 著者不詳(版元 雁金屋庄兵衛)1694 年



『国家金銀銭譜』(写本) 青木昆陽(敦書)著 1746 年

②江戸時代の銭譜と版木

版木は、板に張り付けた下書きの紙をもとに、版木師によって文字や図が丁寧に彫られた。

当館所蔵の『珍銭奇品図録』『新校正孔方図鑑』の版木は、いずれも一枚板の表裏に原版が彫られ、銭貨の分類ごとに解説文と図が付けられている。

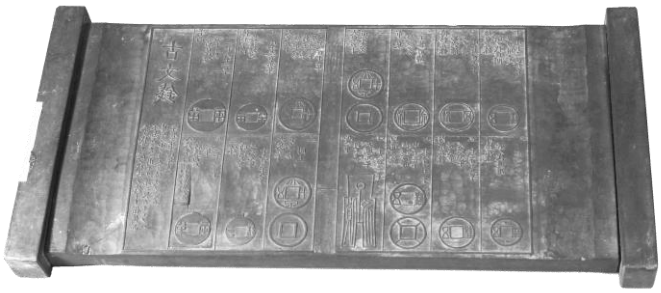
『珍銭奇品図録』 大村成富著 1817 年

当時、珍銭・奇銭と認識されていた貨幣を古文銭(隋以前の銭貨)、平銭(開元通宝以後)、折二銭(二文銭)などに分類し、簡単な解説文と図をつけた銭譜。

大村成富:江戸時代後期の古銭研究家

【『珍銭奇品図録』の特徴】

「凡例」をつけ、その貨幣の来歴を記している点が特徴的である。
この巻末には、「彫工鈴木栄治郎」の名前がある。



『新校正孔方図鑑』 狩谷懐之著 大村成富校正 1816 年

古文銭(隋以前の銭貨)、平銭(開元通宝以後)、僭偽品、外国品、不知品、折二銭(二文銭)、大銭、日本銭、日本絵銭、厭勝品の分類ごとに、簡単な解説文と図をつけた銭譜。

狩谷懐之:狩谷棭斎(江戸後期の国学者で貨幣に通じた人物)の子

③江戸・明治期の印刷・出版技術

江戸時代、書物の主流は筆書きによる従来の写本形式から木版による印刷形式へとかわり、大量生産が可能となり、販売されるようになった。明治時代以降は、主に石版印刷や活字を用いた活版印刷が用いられた。

江戸時代の印刷・出版

江戸時代の印刷・出版は、本屋（中央の小判型の顔）が全体を統括し、画工や版木師などによる分業体制で行われた。

【江戸時代の出版】

17 世紀半ば、幕府・寺社などの庇護を受け、京都において出版業がなりたつようになった。その後大坂へも広がり、元禄期には浮世草子や日常生活に関する本も刊行され、上層庶民も読者となっていった。

18 世紀半ばから出版の中心は上方から江戸へ移り、19 世紀になると読者が中下層の町人、職人層など庶民大衆まで拡大した。

（『宝船黄金桃』 1818 年　東里山人作・勝川春川画
蓬左文庫所蔵）

製本にかかわる職人たち

版木を彫り、刷るなど、製本されるまでの各工程が描かれている。

（『的中地本問屋』 1802 年　十返舎一九作/画
東京都立中央図書館加賀文庫所蔵）

版木を彫る

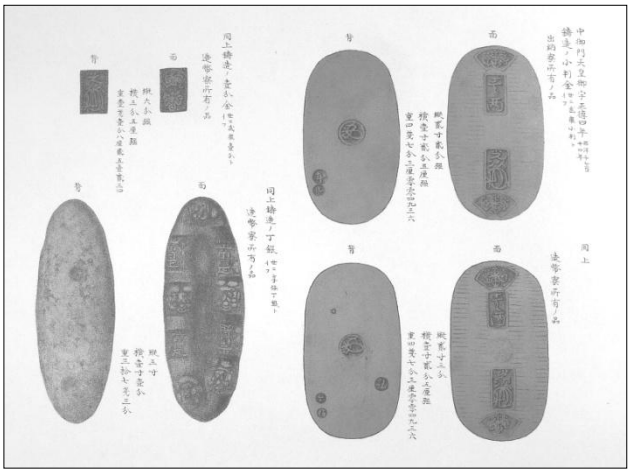
版木から紙に刷る

「古銭会集客図」 明治時代

古銭の顔をもつ人々が銭譜を囲んで集まっている様子が描かれている。
この絵が刷られた用紙に、古銭会に集まった収集家たちが詠んだ貨幣にまつわる歌を直筆したもの。

『大日本貨幣精図』 1878 年 （パネル）

大蔵省紙幣局から発行された彩色の石版印刷による図録。金銀の色や、石版特有の砂目の階調によって立体感が表現されている。



④明治時代の銭譜と版木

明治前期の銭譜は、江戸時代と同じ木版印刷でつくられることが多かった。

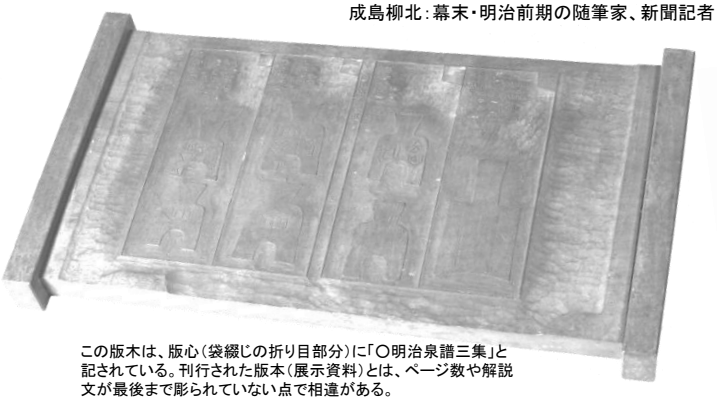
明治時代の銭譜は、実際の貨幣を忠実に再現するために、版の彫り方や色使い等で　工夫がみられるようになった。
また、貨幣分類の細分化に伴い、特定の種類の貨幣を対象とする専門銭譜が多く出版されるようになった。

『明治新撰泉譜』（版木）

第 1･2 集:成島柳北編 1882･1885 年　　第 3 集:守田宝丹編 1889 年

3 冊から構成され、第 1 集は比較的収集しやすい貨幣、第 2 集は収集困難な貨幣、第 3 集は稀少な貨幣と中国古代刀布類を収める。黒（解説文）と薄墨色（図）の二色で表現されている。

成島柳北：幕末・明治前期の随筆家、新聞記者



この版木は、版心（袋綴じの折り目部分）に「〇明治泉譜三集」と記されている。刊行された版本（展示資料）とは、ページ数や解説文が最後まで彫られていない点で相違がある。

『新撰皇朝銭譜』（版木）

中川近礼　編　1899 年

皇朝銭の細分類が進むなかで、中川近礼によって編集された。

中川近礼：明治・大正期の古銭研究家

⑤版木の構造と版の修正

木版印刷の原版となる版木は、手彫のため製作に手間がかかるが、良い状態で保管することで再版が容易であった。
そのため、江戸時代の銭譜は、その版木を用いて明治以降も再版され、流布した。

版木が劣化・破損したり、改訂が必要な場合は、該当部分に板を埋めこむ（入木・埋め木）などにより、版木を再使用した。

入木

【入木（いれき）】

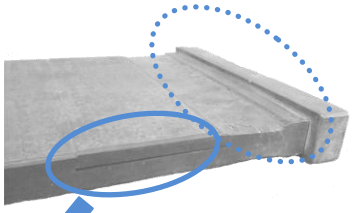
版木は、入木・埋め木により部分的に修正する。版元が変わった場合、新刊に見えるよう書名を変更する場合もあった。

「愛泉家一覧」　1883 年

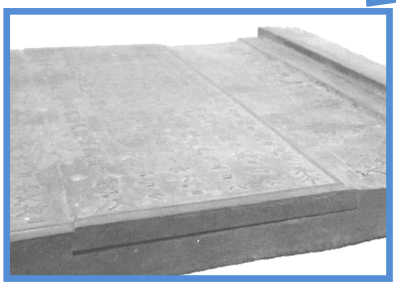
貨幣収集家の番付。当時、温泉番付や職人番付など様々な番付表が出版された。
東の大関には、『明治新撰泉譜』の編者（成島柳北）の名前もみえる。
価格は 4 銭 5 厘。

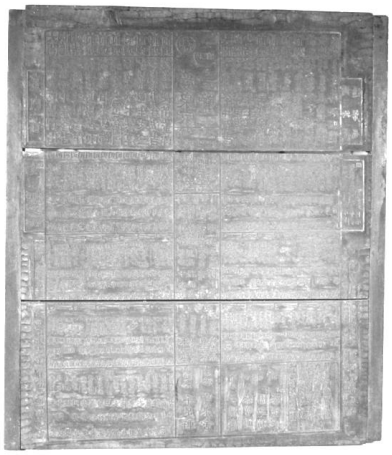
【端喰（はしばみ）】

版木を重ねた際に版面が傷つかないように工夫したもの。



入木





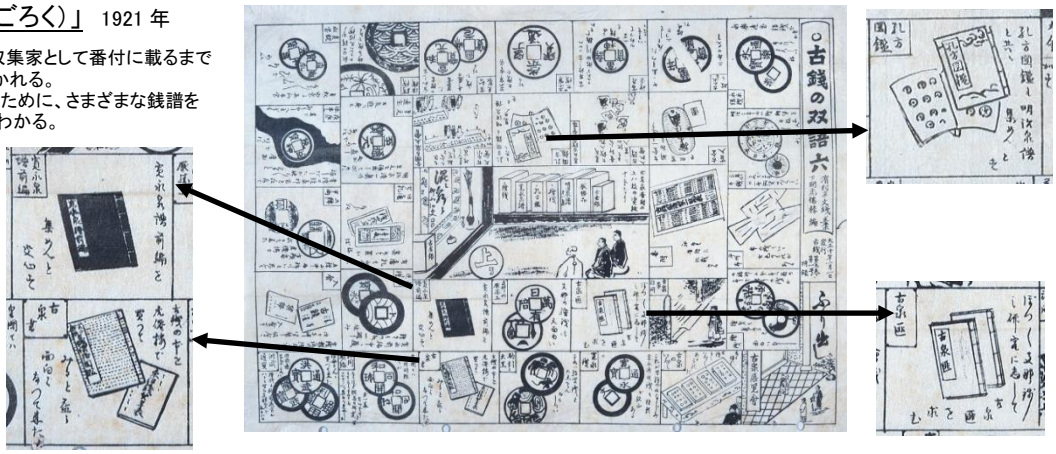
【一枚刷りの大型版木】
3 枚の板を金属製のくぎでつなぎ、はしばみで固定し、一枚の版木としている。

⑥貨幣収集と銭譜

貨幣収集家は、銭譜の普及に伴い、貨幣とともに銭譜を買い求め、その知識を得た。
貨幣収集の際に、銭譜によって知識を深めていく様子が「古銭の双語六」からもうかがわれる。

「古銭の双語六（すごろく）」 1921 年

貨幣収集の初心者が収集家として番付に載るまでの様子がすごろくで描かれる。
貨幣への知識を深めるために、さまざまな銭譜を手に入れていく様子がわかる。



『泉書目録』 明治時代後期 （パネル）

貨幣商の銭譜の所蔵目録。買入価格が朱書きされている。
今回、展示している銭譜の価格も記される。

銭譜の価格は？
1902～1904（明治 35～37）年

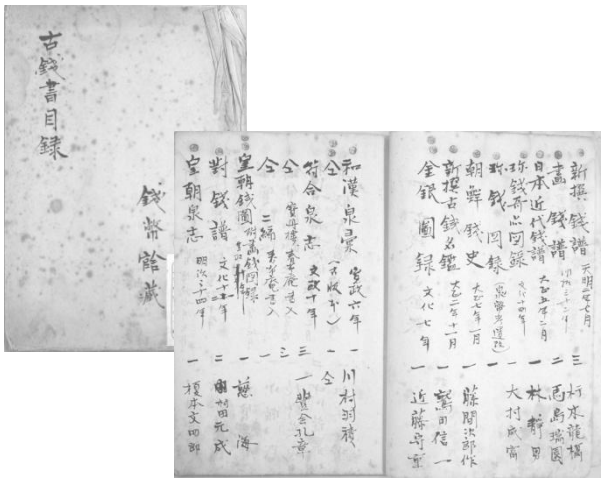
『金銀図録』（7 冊）	1 円 20 銭
『新校正孔方図鑑』	35 銭
『珍銭奇品図録』（初版）	60 銭
『国家金銀銭譜』（写本）	1 円

《明治 30 年代前後のモノの値段》

白米 1 kg	11 銭
食パン 1 斤	7 銭
牛乳 1 本 180CC	4 銭
ビール大びん 1 本	19銭

『古銭書目録 銭幣館蔵』 大正～昭和時代初期 （パネル）

当館所蔵資料の母体となった銭幣館コレクションの銭譜目録。朱書きによるチェックがなされ、銭譜が重要な資料として位置づけられていた様子がうかがわれる。



【主な展示資料】

資料名	年代
『和漢古今宝銭図鑑』	1694（元禄7）年
『国家金銀銭譜』	1746（延享3）年
『銭録』	1773（安永2）年
『金銀図録』 一・二・三	1810（文化7）年
『珍銭奇品図録』	1817（文化14）年
『新校正孔方図鑑』	1816（文化13）年
版木（珍銭奇品図録）	江戸時代
版木（新校正孔方図鑑）	江戸時代
『明治新撰泉譜』第一・二・三集	1882・1885・1889（明治15・18・22）年
『新撰皇朝銭譜』	1899（明治32）年
版木（明治新撰泉譜三集）	明治時代
版木（新撰皇朝銭譜）	明治時代
版木（愛泉家一覧）	明治時代
「古銭会集客図」	明治時代
「古銭の双語六」	1921（大正10）年
「愛泉家一覧」（古銭家番付）	1883（明治16）年

日本銀行金融研究所
貨幣博物館
電話：03－3277－3037（直通）
〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町 1-3-1

Jan 17, 2012 1st edition